

基準3 教育研究組織

A：点検・評価項目	B：評価の視点	第2期中期計画	C：担当者	D：改善すべき課題	E：改善に向けた本年度の取組み		F：次年度に向けた課題等
					具体的な取組み内容	根拠資料（保管・保存場所）	
① 大学の理念・目的に照らして、学部・研究科、附置研究所、センターその他の組織の設置状況は適切であるか。	○大学の理念・目的と学部（学科又は課程）構成及び研究科（研究科又は専攻）構成との適合性 ○大学の理念・目的と附置研究所、センター等の組織の適合性 ○教職課程等を置く場合における全学的な実施組織の適切性 ○教育研究組織と学問の動向、社会的要請、大学を取り巻く国際的環境等への配慮	④(a)(i) 国際化の推進に向けた学内ガバナンスの再整備 ④(a)(ii) 国際交流・留学生センターの再整備 ⑥(d)(i) 総合研究センターにおける研究支援機能の整備と強化 ⑥(d)(ii) 人間福祉相談センターにおける研究活動の推進 ⑥(d)(iii) 附属図書館における研究支援の充実 ⑥(d)(iv) 子ども家庭支援センターにおける研究活動の推進	清水	2022年度には4週間のカナダアルバータ大学への短期留学が夏季休暇中（8月出発と9月出発の2回）に実施され、春季休暇中（2月出発）予定されている。理学療法学科では夏季のカナダ短期留学に2年生が1名参加した。しかし、記録的な円安や燃料高騰の為もあり、参加者は1名にとどまった。 現在開催されている語学研修はハワイ大学カピオラニ校との提携によるオンライン語学研修がある。理学療法学科からはハワイオンライン研修への参加がない。 現在行われている海外研修は、いずれも理学療法学科からの参加者が少ないのが現状である。今後、参加者が増えるように広報の在り方を見直す必要がある。	①広報活動 (1)夏季のカナダ短期留学に向けポスターやポータルからの情報発信 (2)2022年度オリエンテーションにおいてVTRを用いた広報 ②説明活動 (1)オリエンテーションにてチラシを学生に配布し、語学研修に関して説明した (2)ポスターとポータルを用いての案内と説明会の開催 説明会には夏季短期留学の参加者に留学の魅力を伝えてもらうプレゼンテーションをしていただいた。 ②理学療法学科では4月の学科会議において国際交流・留学生委員から夏季カナダ短期留学に学科から1人申し込みがあったことが報告された。留学期間に期末試験が重なる強化があり、担当教員へ配慮のお願いがあった。9月の学科会議において夏季カナダ短期留学に赴いた学生が無事帰国したことが報告された。11月の学科会議において春季のカナダ短期留学についての説明があった。	①2021年度第9回 および第10回、第11回国際交流・留学生委員会議事録、2022年度第3回 および第4回、第6回、第7回国際交流・留学生委員会議事録（WebMagic管理） ②2022年度4月および9月、11月看護リハビリテーション学部会議・理学療法学科会議事録（Teams管理）	・今年度は本学としてアルバータ大学へ短期留学生を派遣した最初の年であった。アルバータ大学側の年間のスケジュールを把握していなかったため、広報が後手に回ってしまった。できるだけ早く広報を開始し、より多くの学生に短期留学制度を認識してもらうことが第一である。さらに広報の内容もより魅力が伝わるような内容にブラッシュアップしていく必要がある。
② 教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	○適切な根拠（資料、情報）に基づく教育研究組織の構成の定期的な点検・評価 ○点検・評価結果に基づく改善・向上						

基準4 教育課程・学習成果

A：点検・評価項目	B：評価の視点	第2期中期計画	C：担当者	D：改善すべき課題	E：改善に向けた本年度の取組み		F：次年度に向けた課題等
					具体的な取組み内容	根拠資料（保管・保存場所）	
① 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。	○課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明示した学位授与方針の適切な設定（授与する学位ごと）及び公表		千鳥	3年達成度テストについて	①2020年度入学者を対象に実施している前期達成度テストの成績をOSCEⅠの判定要件の一部とした。 ②同対象者における後期達成度テストの内容を「解剖・生理・運動学」から「理学療法評価学」へと変更し、達成度テスト全体として学習範囲の拡大を試みた。	①学科会議議事録（WebMagic管理） ②学生成績（スマコクPC管理）	・3年前期に行われる達成度テストの成績が科目の成績の一部と変更されたことで、学生の取り組み方の変化および成績の違いについて2019年度以前の入学者と比較検証する。
② 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	○下記内容を備えた教育課程の編成・実施方針の設定（授与する学位ごと）及び公表 ・教育課程の体系、教育内容 ・教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等 ○教育課程の編成・実施方針と学位授与方針との適切な連関性						
③ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	○各学部・研究科において適切に教育課程を編成するための措置 ・教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性 ・教育課程の編成にあたっての順次性及び体系性への配慮 ・単位制度の趣旨に沿った単位の設定 ・個々の授業科目の内容及び方法 ・授業科目の位置づけ（必修、選択等） ・各学位課程にふさわしい教育内容の設定 ・初年次教育、高大接続への配慮（【学士】 【学専】） ・教養教育と専門教育の適切な配置（【学士】） ・実践的・応用的な能力、職業倫理の涵養への配慮、専門の職業を取り巻く状況への配慮、教養教育・基礎的な教育・職業に係る教育科目等の適切な配置（基礎科目（一般・基礎科目）、職業専門科目、展開科目、総合科目）等（【学専】） ・コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮等（【修士】 【博士】）	①(a)(ii) 県内高校と連携に基づく入学前・初年次教育の推進 ②(a)(iv) 高等学校と連携による入学前・初年次教育の推進 ②(a)(ii) 課題解決能力・地域貢献力を養う教育の推進 ②(b)(i) 教育課程の編成方針における地域志向科目の明確化 ②(b)(ii) 地域志向科目の全学科(大学・短大)における開講 ③(d)(ii) 通信教育部におけるICT教育の推進 ④(b)(i) 留学生別科の教育改革の推進 ④(c)(i) 英語コミュニケーション教育の推進 ④(c)(ii) 児童英語教育の推進と特色化	西中川	2年達成度テストについて	①2021年度入学者を対象に、前期の学習効果の検証を実施し、学習効果が得られなかった学生に対する学生指導を実施した上で、2年次学生指導の効果検証を行う。 ②具体的には、夏季休暇中に成績不良者に対して課題学習を実施した。 ③後期に入ってから、夏季休暇中の課題実施状況を確認し、学習方法や取り組みについて指導を実施した。	①【達成度テスト委員】2022年度【通年】自己点検・認証評価等取り組み状況報告書（Teams管理）	①、2023年度の目標として2022年度に検証した結果（2021年度入学者対象）が、3年次前期および後期の学習到達度に及ばず影響を検証している。
④ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	○各学部・研究科において授業内外の学生の学習を活性化し効果的に教育を行うための措置 ・各学位課程の特性に応じた単位の実質化を図るための措置（1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定等） ・シラバスの内容（授業の目的、到達目標、学習成果の指標、授業内容及び方法、授業計画、授業準備のための指示、成績評価方法及び基準等の明示）及び実施（授業内容とシラバスとの整合性の確保等） ・学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法（教員・学生間や学生同士のコミュニケーション機会の確保、グループ活動の活用等） ・学習の進捗と学生の理解度の確認 ・授業の履修に関する指導、その他効果的な学習のための指導 ・授業外学習に資する適切なフィードバックや、量的・質的に適当な学習課題の提示 ・臨地実務実習、その他必要な授業形態、方法の導入と実施（【学専】） ・授業形態に配慮した1授業あたりの学生数		浅野	OSCEについて OSCEは基礎医学的知識、臨床医学的知識、理学療法評価学、各領域の治療学など机上で学んだ内容を適切に臨床で活用・実施できるかを確かめる機会である。それまでに学んだすべての科目が統合された内容であるべきである。 ①健常者を対象に評価や治療の技術を学ぶ上で、いかに臨床症状をイメージできるようにするか？ ②健常者を対象に評価や治療の方法を実施する上で、いかに患者・利用者をイメージできるようにするか？ ③高齢者が有する身体的特徴に適した対応や好発する合併症への対応を、いかに発想させるか？	①分かりやすい疾患・障害を有した症例を提示し、教えるだけでなく、与えた情報をもとに考え、グループで検討させる機会を多く持つ。教員は自身の臨床経験をもとに疾患や障害について具体的に伝える。 ②OSCEでは臨床で働く理学療法士を招き、試験官・被検者として参加させ、より患者に近い症状の再現を期待する。また、緊張感と尊厳を持って被検者と接する機会を持つ。 ③OSCEの提示症例は、単純な疾患の患者ではなく、遭遇しやすい合併症を有した患者とし、いくつもの症例の共通点・相違点から患者像をイメージするトレーニングを行う。	①学科会議議事録 実習委員会議事録（Teams：実習委員会>一般>議事録） Teamsフォルダ内(理学療法学科>一般>25-OSCE>2022後期)	学内のOSCEの合格レベルが適切か、不明である。 OSCEで対象とすべき内容の検討を何を材料に行うか、不明である。 それらを明らかにするためには、臨床実習後のアンケートが必要。

A：点検・評価項目	B：評価の視点	第2期中期計画	C：担当者	D：改善すべき課題	E：改善に向けた本年度の取組み		F：次年度に向けた課題等
					具体的な取組み内容	根拠資料（保管・保存場所）	
⑤ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	<p>○成績評価及び単位認定を適切に行うための措置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単位制度の趣旨に基づく単位認定 ・既修得単位等の適切な認定 ・実践的な能力を修得している者に対する単位の適切な認定（【学専】） ・成績評価の客観性、厳格性、公正性、公平性を担保するための措置 ・卒業・修了要件の明示 ・成績評価及び単位認定に関わる全学的なルールの設定その他全学内部質保証推進組織等の関わり <p>○学位授与を適切に行うための措置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学位論文審査がある場合、学位論文審査基準の明示・公表 ・学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保するための措置 ・学位授与に係る責任体制及び手続の明示 ・適切な学位授与 ・学位授与に関わる全学的なルールの設定その他全学内部質保証推進組織等の関わり 		稿飼 浅野	<p>実習内容報告書の導入について</p> <p>見学実習・評価実習・総合実習の各実習で経験した内容（事項）を明確にすること。</p> <p>各実習の目標に対する学生の達成度と課題を明確にすること。</p>	<p>臨床実習の内容の報告には、①CCSチェックリスト、②ループリック評価表がある。</p> <p>①は実習の「情意」「認知」「精神運動」の各領域の項目に対し、実施したレベルを「見学」「模倣前期」「模倣後期」「実施」の4段階に分けてチェックするものである。毎日のチェックにより各自の到達度・実施事項を明らかにし、学習の蓄積を助けるものである。</p> <p>②は指導者による学生の評価を「情意」「認知」「精神運動」の各領域に分け、さらに細分化して到達度を「模範的」「有能」「発展途上」「努力と指導を要する」の4段階で評価する者である。具体的内容の書き込みにより問題が明確化される方法である。</p> <p>実習指導者会議（実習教育研修会）で説明する。</p>	Teamsフォルダ（理学療法学科>一般>22-臨床実習関係>臨床実習 評価表（チェックリスト・ループリック））	<p>実習指導者にこれらの評価法の特徴と長所を理解してもらうこと。実際に使用して課題を見つけ修正すること。</p>
⑥ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	<p>○各学位課程の分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定（特に専門的な職業との関連性が強いものにあつては、当該職業を担うのに必要な能力の修得状況を適切に把握できるもの。）</p> <p>○学位授与方針に明示した学生の学習成果を把握及び評価するための方法の開発</p> <p>≪学習成果の測定方法例≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アセスメント・テスト ・ループリックを活用した測定 ・学習成果の測定を目的とした学生調査 ・卒業生、就職先への意見聴取 <p>○学習成果の把握及び評価の取り組みに対する全学内部質保証推進組織等の関わり</p>	②(c)(iii) カリキュラム・ポリシーの点検、教育改善への反映	濱岸	<p>・学習成果の測定を目的とした学生調査について</p> <p>2021年度（2022年3月卒業）卒業研究として以下のテーマで取り組む。</p> <p>①「新型コロナウイルスのワクチン接種」を集団接種した学生へアンケート調査を実施し、その副反応について簡潔にまとめた。</p> <p>②全国の理学療法士養成校における「感染症」教育について、各養成校のシラバスを調査し、大学と専門学校との比較検討した。</p> <p>2022年度（2023年3月卒業予定）卒業研究として継続テーマで取り組む。</p> <p>①「新型コロナウイルスワクチン接種後の副反応に関するアンケート調査結果について」と題して調査し、4回目への意向も調査した。</p> <p>②「コロナ禍での臨床実習における満足度調査」と題して調査し、学生が抱いた臨床実習への状況を調査し、来年度以降へ向けて実態を把握した。</p>	<p>・学生、教員へ提供されているMicrosoft Office 365のアプリケーションである forms を利用し、ウェブアンケートを作成。</p> <p>非接触型のアンケート調査を実施。収集データは、回答と同時に瞬時に集約。</p> <p>コロナ禍における学生の状況を把握した上で、コロナ禍での臨床実習における満足度調査について調査し、学生が抱いた臨床実習への実態調査を実施した。</p>	<p>①Microsoft Office 365 forms</p> <p>②2021年度卒業研究サマリー集【2022年3月発行】</p> <p>③Teams：【4年】2019年度理学療法入学生（13期生）_情報活用論IV_ファイル</p>	<p>・ウェブアンケートを適切に運用しているか確認が必要。</p> <p>・アンケート調査についてデータを適切に管理しているか確認が必要。</p> <p>・継続した調査を視野に入れて、調査項目等の再検討も必要である。</p>

A：点検・評価項目	B：評価の視点	第2期中期計画	C：担当者	D：改善すべき課題	E：改善に向けた本年度の取組み		F：次年度に向けた課題等
					具体的な取組み内容	根拠資料（保管・保存場所）	
⑦ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	○適切な根拠（資料、情報）に基づく定期的な点検・評価 ・学習成果の測定結果の適切な活用 ○点検・評価結果に基づく改善・向上						
⑧ 教育課程連携協議会を設置し、適切に機能させているか。（学士課程（専門職大学及び専門職学科）／大学院の専門職学位課程）	○メンバー構成の適切性（【学専】【院専】） ○教育課程の編成及びその改善における意見の活用（【学専】【院専】）						

基準5 学生の受入れ

A：点検・評価項目	B：評価の視点	第2期中期計画	C：担当者	D：改善すべき課題	E：改善に向けた本年度の取組み		F：次年度に向けた課題等
					具体的な取組み内容	根拠資料（保管・保存場所）	
① 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。	○学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針の適切な設定及び公表 ○下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針の設定 ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像 ・入学希望者に求める水準等の判定方法		濱岸	面接時評価表について ①昨年度まで使用していた「評価表」を見直し作業を実施。新たな「評価表」で面接を行っている。 ②自己実現、一般推薦、（キリスト教特別推薦、同窓会特別推薦、課外活動特別）、（学院内推薦/指定校推薦）と四種類に分類し、多様な評価を可能として準備・運用開始。	①（理学療法学科会議）2021年10月より各教員へ「面接時評価表」の見直しを通知。2022年1月より複数回の意見聴取し、7月末集約。9月に決定。 ②（入試広報委員会）2022年1月、委員会にて検討中を報告。3月、最終決定時期を確認。2022年9月からの入試で運用を確認・決定。	①報告書（Teams管理） 理学療法学科_一般_入試広報関連（フォルダ） _PT学科_入試面接時評価表	・今年度の入試終了後、学科内で改善点の有無を確認、修正が必要であれば、来年度に向けて修正作業を検討。
② 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学選抜を公正に実施しているか。	○学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学選抜制度の適切な設定 ○授業料その他の費用や経済的支援に関する情報提供 ○入試委員会等、責任所在を明確にした入学選抜実施のための体制の適切な整備 ○公正な入学選抜の実施 ・オンラインによる入学選抜を行う場合における公正な実施 ○入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学選抜の実施 ・オンラインによって入学選抜を行う場合における公平な受験機会の確保（受験者の通信状況の顧慮等）	①(a)(i) 県内高校との連携推進 ①(a)(iii) 高大連携事業の推進 ①(b)(i) 外国人留学生の受入に向けた学内体制の整備 ①(b)(ii) 障がいのある学生、社会人学生の受入に向けた募集施策・入試制度の策定 ①(c)(i) 高大接続改革実行プランを踏まえた新入試制度の実施 ①(c)(ii) 各ポリシーと入試制度・教育課程の点検 ①(d)(i) 募集活動のPDCAサイクルの確立 ①(d)(ii) ブランディング推進・広報の一体運営 ①(e)(i) 通信教育部の募集戦略の明確化と推進 ①(e)(ii) 大学院の募集活動の推進					
③ 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	○入学定員及び収容定員の適切な設定と在籍学生数の管理 ・入学定員に対する入学者数比率（【学士】【学専】） ・編入学定員に対する編入学生数比率（【学士】【学専】） ・収容定員に対する在籍学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応		井村	【アセスメントポリシーについて】 ・アセスメントポリシーが、本学科での教育、し いては理学療法士を目指す学生像となりうるが、 具体的な評価基準が明確でない。 ・各入試において、想定する学生像と合格者が一 致していない（アセスメントポリシーを満たさな い）者がいること。	・面接試験における評価シート（基準・配点）の見直し（入試広報委員が担当） ・各入試区分における出願状況等の確認 入学倍率と、現役卒業率・国家試験合格率の比較	（入試広報委員および入試広報課） （機微性が高いため、IR委員会及び学科会議で 報告し、井村が保管し共有していない）	・入学前（入試前）に理学療法学科の教育課 程・方針をいかに受験生に浸透させるか（入学 後の希望不一致による学籍移動を避けることが できるか） ・指定校の基準・指定の見直し 各入試における定員の配分の検討 （※ただし、学科レベルで決定できる事項では ない）
④ 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	○適切な根拠（資料、情報）に基づく定期的な点検・評価 ○点検・評価結果に基づく改善・向上						

基準6 教員・教員組織

A：点検・評価項目	B：評価の視点	第2期中期計画	C：担当者	D：改善すべき課題	E：改善に向けた本年度の取組み		F：次年度に向けた課題等
					具体的な取組み内容	根拠資料（保管・保存場所）	
① 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	○大学として求める教員像の設定 ・各学位課程における専門分野に関する能力、教育に対する姿勢等 ○各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針（分野構成、各教員の役割、連携のあり方、教育研究に係る責任所在の明確化等）の適切な明示				①（〇〇委員会）〇〇〇〇〇〇〇〇。 ②（□□学科会議）□□□□□□□□。	①〇〇〇議事録（WebMagic管理） ②□□□報告書（Teams管理）	・〇〇〇 ・□□□
② 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	○大学全体及び学部・研究科等ごとの専任教員数 ○適切な教員組織編制のための措置 ・教員組織の編成に関する方針と教員組織の整合性 ・各学位課程の目的に即した教員配置 ・国際性、男女比 ・実務家教員の適正な配置（【学専】【院専】）（研究能力を併せ有する実務家教員の適正な配置【学専】） ・特定の範囲の年齢に偏ることのないバランスのとれた年齢構成への配慮 ・教育上主要と認められる授業科目における専任教員（教授又は准教授）の適正な配置 ・研究科担当教員の資格の明確化と適正な配置 ・教員の授業担当負担への適切な配慮 ○教養教育の運営体制						
③ 教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	○教員の職位（教授、准教授、助教等）ごとの募集、採用、昇任等に関する基準及び手続の設定と規程の整備 ○規程に沿った教員の募集、採用、昇任等の実施	⑧(d)(i) 人事委員会の改編（教員評価制度を含む）					
④ ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。	○ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動の組織的な実施 ○教員の教育活動、研究活動、社会活動等の評価とその結果の活用	⑧(d)(ii) 教職員の研修制度（FD・SD）の充実	菅沼	FD研修について	・毎年、年度内に2回のFD研修を行い教員の教育・研修活動を実施している。 ・定期的に看護学科と合同でFD研修を行い、医療の共通目的や共通理解の促進を図っている（2020年度は学部長の講演を実施）。 ・2021年度は遠隔学習ツールである「teams」の具体的な活用方法について研修を行った。2022年度は「シラバス」の書き方について研修計画である。	・教育研究支援課 ・teams「FD研修」にデータで保管 ・FD委員の菅沼のPCに保管	・授業におけるPDCAサイクルの活用や進め方などについて研修予定である。
⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	○適切な根拠（資料、情報）に基づく定期的な点検・評価 ○点検・評価結果に基づく改善・向上						

基準7 学生支援

A：点検・評価項目	B：評価の視点	第2期中期計画	C：担当者	D：改善すべき課題	E：改善に向けた本年度の取組み		F：次年度に向けた課題等
					具体的な取組み内容	根拠資料（保管・保存場所）	
① 学生が学習に専念し、安定した学生生活を送ることができるよう、学生支援に関する大学としての方針を明示しているか。	○大学の理念・目的、入学者の傾向等を踏まえた学生支援に関する大学としての方針の適切な明示						
② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。	○学生支援体制の適切な整備 ○学生の修学に関する適切な支援の実施 ・学生の能力に応じた補習教育、補充教育 ・正課外教育 ・自宅等の個々の場所で学習する学生からの相談対応、その他学習支援 ・オンライン教育を行う場合における学生の通信環境への配慮（通信環境確保のための支援、授業動画の再視聴機会の確保など） ・留学生等の多様な学生に対する修学支援 ・障がいのある学生に対する修学支援 ・成績不振の学生の状況把握と指導 ・留年者及び休学者の状況把握と対応 ・退学希望者の状況把握と対応 ・奨学金その他の経済的支援の整備 ・授業その他の費用や経済的支援に関する情報提供 ○学生の生活に関する適切な支援の実施 ・学生の相談に応じる体制の整備 ・ハラスメント（アカデミック、セクシュアル、モラル等）防止のための体制の整備 ・学生の心身の健康、保健衛生及び安全への配	②(d)(iii) 附属図書館・ラ・ルーラにおける教育・学習支援 ③(a)(i) 学生相談に向けたコーディネート体制の整備 ③(a)(ii) 中途退学の抑制 ③(b)(i) 学生ボランティア活動の支援と啓発 ③(b)(ii) 課外活動(クラブ活動)の活性化と資源の再配置 ③(c)(i) 横断的なキャリア支援体制の構築 ③(c)(ii) 進路満足度・進路指導満足度の向上 ③(c)(iii) 地元就職率の向上 ③(d)(i) 卒業生ネットワークの構築 ③(d)(ii) 保護者に向けた情報提供の機会の整備 ③(e)(i) 障がいのある学生に向けた支援方針の整備 ③(e)(ii) 保健・健康指導の充実と禁煙指導の実施 ④(b)(ii) 留学生の生活支援の充実 ④(d)(i) 海外研修の充実・海外留学の推奨 ④(d)(ii) 海外大学との教育連携・研究連携	浅野	合理的配慮について 定期試験中の一時退席に対する公正の保障	過敏性膀胱の学生から定期試験中のトイレへの一時退席に対する合理的配慮の申請があった。全学でのルールを定めることが難しかったため、規定数の試験監督に加え付き添いのための学科教員を1名配置した。	特別支援委員会議事録（Web magic 常設委員会議事録内） 個人情報は学生支援室・教務課で管理 学科会議事録（Web magic 学部・学科会議事録内）	今年度は該当学生のすべての試験に1名の教員を配置できたが、必ずしも学科内で対応できるとは限らない。特別支援委員会で情報を共有するので、他学科・時事務職員の協力を得られるようにする必要がある。あるいはすぐに呼び出しにに応じられる待機者を設置することでも解決できる。
③ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	○適切な根拠（資料、情報）に基づく定期的な点検・評価 ○点検・評価結果に基づく改善・向上						